

道岳連だより

広報 NO.78
平成28年9月1日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>



「山の日」行事 多彩に展開

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」の趣旨のもと、国民の祝日に関する法律改正案が国会で成立し、8月11日が16番目の国民の祝日として、「山の日」が誕生しました。

北海道山岳連盟をはじめ、同加盟団体や関係機関、北海道内の山岳団体が「山の日」に協賛して多彩な事業が展開されました。

北海道山岳連盟では、北海道、北海道森林管理局、(公社)北海道森と緑の会と共催し、8月11日「道民の森 神居尻山登山会」を開催。関係機関・団体・一般参加者36名が集結し、道岳連からは小野会長ほか9名が参加した。他にもJR北海道からの依頼で、子供を対象にした札幌駅JRタワーから見える山々の解説を4日間、明田、神山、橋本の各氏が担当している。

また、北海道警察が道内の日本百名山の9座で行った、安全登山啓発活動には、地元の道岳連加盟団体の会員がそれぞれ同行し、一般登山者に対して山岳遭難事故防止を訴えた。

以下、北海道山岳連盟加盟団体が主催した記念事業実施状況を掲載する。

7/19 オロフレ山登山(北広島山岳連盟)、7/31 暑寒別岳登山(留萌山岳会)、8/11 窟太郎山登山(登別嶺友会)、8/11 室蘭岳登山(室蘭山岳連盟)、8/11 斜里岳チョコット登山体験(クーラカンリ山岳会)、8/11 ピンネシリ登山(岩見沢山岳連盟)、8/11 富良野岳登山(富良野山岳会)、8/11 美唄山登山(美唄山岳会)、雄阿寒岳登山(釧路山遊会・釧路白湯山倶楽部・釧路山楽会)、8/11 無意根山登山(ロビニア山岳会)、9/11 武佐岳登山(釧路山岳連盟)。



神居尻山登山会開会式



旭岳における安全登山啓発活動

HOKKAIDO OUTDOOR FESTIVAL 2016

北海道トレイルランニング大会2016inルスツ



2016年9月25日(日)
ルスツリゾート・貫気別岳周辺

50mile・60km・30km・15km・05km・キッズ

スタッフ要請 … 実行委員長 佐藤 眞

昨年の大会は、熊の出没、ゲリラ豪雨により一部競技中断となりました。初めての経験であり、処理に手間取りましたが、選手はみな無事回収できました。この経験を生かし前年以上の体制で本年度大会を安全に運営したく、ご協力をお願いいたします。

要請日 9月24-25日(大会当日)

人員 本部役員 10名 行動役員 70名

交通費と食費等必要経費は大会実行委員会が用意します。若干の謝礼を考えておりますが、大会終了後に精算させていただきます。

申込先 〒006-0012 札幌市手稲区富丘2条4丁目5-22 佐藤 眞 FAX 011-676-3809

Eメール acs315.shin.sato.g@gmail.com

※申込書の様式、記載内容の確認は道岳連HPを参照ください。

第30回北海道山岳連盟交流登山大会 7/9-10 ニセコ・羊蹄山 真狩村羊蹄山自然公園キャンプ場

プレ全日大会と設定し準備をすすめた中、169名の参加があり大いに盛り上がるも、登山当日はあいにくの雨となり、登頂班、途中撤退班に分かれる。無線基地に難があり全日大会には再考が必要の結果を得た。携帯電話はB・Cコースが不通となる。羊蹄山コースはバラつきが予想されるので、ここも検討の必要がある。
(報告 明田 通世)



登山コースとリーダー A アンヌプリ(28名) 難波正幸(ロビニア山岳会)、B イワオ・ニトヌプリ(18名) 吉田昭二(王子製紙山岳部)、C 沼巡り(10名) 佐藤 健(こぶし山岳会)、D チセヌプリ(20名) 向川司郎(徒歩の会・小樽)、E 羊蹄山・比羅夫(17名) 荒堀英雄(新得山岳会)、F 羊蹄山・真狩(33名) 藤木晴夫(登別山岳会)、G 羊蹄山・京極(21名) 東海林春樹(札幌山の会)、H 尻別岳(12名) 千田榮三(釧路山遊会)

本部 小野倫夫、明田通世、益田敏彦、上野敏彦、石川孝一、玉木とし子、堀内弘和
無線基地 川竹 正、宮園真壽美

行事・各委員会事業報告

平成27年度総会・第1回理事会 5/15 札幌市教育文化会館

北海道山岳連盟平成28年度総会・第1回理事会は、去る5月15日(日)札幌市教育文化会館において、加盟山岳連盟・山岳会の代議員33名(委任状22名)の出席のもと開催された。

会長挨拶の後、議長に札幌山岳連盟杉林氏、室蘭山岳連盟駒込氏が選出され議事に入った。1号議案「平成27年度を振り返って」では、神山理事長より総務委員会が実施したアンケートに沿って①道岳連の運営に関する事 ②事業運営について それぞれの意見紹介と課題克服のための協力を要請した。第2号議案「平成27年度事業報告」、第3号議案「平成27年度収支決算報告」、第4号議案「会計監査報告」は、質疑を経て承認された。第5号議案の「加盟団体脱会」では、会員減少による活動困難により砂川山岳会から脱会の届け出があり承認する。第6号議案「平成28年度に向けて」で理事長は、①次年度の全日大会へ向けた交流登山会を開催 ②山の日事業の推進 ③加盟団体や地域山岳会との接点強化 ④広報活動の強化 ⑤協賛スポンサーの発掘 などによる財政基盤確立 ⑥各委員会事業の活性化、特にジュニア事業の参加率向上 ⑦一般登山愛好者への啓発活動 を目標として掲げた。第7号議案「平成28年度活動方針及び事業計画(案)」、第8号議案「平成28年度会計予算(案)」は事務局長、各委員会委員長が説明し、提案通り承認される。

第9号議案「各種議題」では、1. 第30回北海道山岳連盟交流登山会要項は、次年度の「全日本登山大会羊蹄山・ニセコ大会」の予備大会と位置付け7月9-10日に実施、各コース担当の責任山岳連盟・山岳会を委嘱したことを説明する。2. 第57回全日本登山大会は平成29年7月6-8日に8コース定員320名を予定。3. 「山の日」記念登山会は、各県ごとキャンペーン実施、道内山岳団体共催の形で道民登山会予定、加盟団体も7月11日から9月11日に協賛事業の開催を要請。4. 委員会備品台帳に基づく備品管理状況を説明。



第10号議案「会長・副会長・監事候補について」は、三役推薦委員会設置、加盟団体への候補者推薦を求めた経緯と常任理事会・理事会での承認のもと、以下の候補者が選任された。

会長 小野倫夫(留 えぞ山道会)、副会長 斉藤邦明(留 十勝山岳連盟)、佐藤 眞(留 札幌山岳連盟) 秋元篤男(新 札幌山岳連盟)、石井昭彦(新 旭川山岳会)、監事 宮西 博(留 美唄山岳会)、荻谷勝利(留 下川クライミングクラブ)。

第11号議案「その他」では、今年度の道岳連リーフレット紹介。新規加盟団体「千歳ヤマセミクラブ(為野宜己代表)の承認。土屋勲前副会長の顧問推薦を承認した。

なお、総会承認役員を除く平成28年度から同29年度の北海道山岳連盟執行部体制は次のとおりとなった。

理事長 明田通世(札幌岳連)、指導委員長 藤木晴夫(室蘭岳連)、事務局長・総務委員長 益田敏彦(札幌岳連)、普及委員長 横山 温(室蘭岳連)、競技委員長 山納秀俊(高体連)、海外委員長 工藤 寛(レインボークラブ)、自然保護委員長 内藤美佐雄(美瑛山岳会)、ジュニア委員長・事務局 本林尚之(恵庭山岳会)、指導副委員長 石川孝一(苫小牧岳連)、競技副委員長 橋村昭男(えぞ山道会)、常任理事・競技 一安敏文(道フリークライミング協会)、事務局次長 玉木とし子(札幌岳連)、常任理事・指導 下山シゲ子(釧路岳連)、常任理事・総務 澤田時人(室蘭岳連)、事務局・遭対 上野敏彦(えぞ山道会)、理事・事務局員 太田和子(札幌岳連) 遭対委員長は斉藤副会長が兼任する。

夏期遭難対策研修会 5/21-22 日高登山研修所及び周辺

5月21・22日、日高登山研修所において、一般登山愛好者、大学生など3名を含む17名で夏の遭難対策研修会が開催されました。

最初に委員長の講話が行われ、道内の山岳遭難事故は、例年50件余りだったものが昨年は100件と増加に転じ、平成28年に入っても4月末までに53件の事故がありました。主に海外から訪れるスキーヤーやボーダーの場外滑走による道迷いですが、既に3件の死亡事故が発生しています。遭難の要因は天候不順や滑落ですが、死亡の直接原因は低体温症とされ、いずれも防寒装備不足と考えられます。まだまだ山は冬の状況であり、登山対策や装備に注意を払うことが大切です。

北海道山岳遭難対策協議会で組織される気象協会からは、最近ネット上にそれぞれの山の細かい情報が掲載され、特に3200mの上空から2100m、1600mなど頂上付近の気温、風向、風力が計測され表示されますので、登山に出かける前の参考となります。

登山計画書の作成は、事前にルートや行動時間、危険箇所を予測することで遭難事故の回避ともなり、警察に届を提出することにより遭難時の居場所がポイントで得られやすい。登山計画書は近くの交番やネット等届出を出しやすくされており、提出が登山者の責務ともなります。

いずれも、事前の準備と登山中は油断をせず、帰るまで緊張感を解かないことが事故防止につながります。

次に、仲井講師からロープワークに必要な、ロープの太さによる強度や扱い方による危険度。登山に必要な結び方の種類、支点の取り方と角度などパワーポイントにより講義が行われた。

為野講師からは、ダブルフィギュアエイトノットの強度の高い結び目の整え方、ロープ懸垂の場合のプルージックの結び方、登攀用具の使い方について講義が行われた。この後体育館において、5人ごと3班に分かれ、仲井、為野、潮田指導員が付き、実習が行われた。デイジーチェーンのかけ違いによる危険性の説明やロープでつり下がりの登攀、懸垂下降、プルージックをかけての登り返し、滑車に50kgのおもりを下げ、確保時にテンションを掛けた状態から自己脱出を図る実習を行った。夕食時には、近くで採取したギョウジャニンニクと焼肉で舌鼓を打ちました。

二日目は、砂防ダム付近において、高巻きのため15~20m程の急斜面を班ごとにロープと器具を使った懸垂下降やロープをフィックスした状態においてプルージックで安全を確保した登攀、さら



に器具を使わず肩がらみによる懸垂下降を実習。

北海道内では珍しく 30℃を越える猛暑が続き、熱中症にならないよう水分補給を行いながら昼までに全ての研修を終了しました。



(報告 遭難対策委員長 斉藤 邦明)

登攀技術研修会 5/28-29 上滝ロック・日高青少年自然の家

2016年度の登攀技術研修会は、5月28日(土)～29日(日)、日高町の日高青少年自然の家(座学)と上滝ロック(実技)で行われた。

参加人数は受講者13名、スタッフ4名の合計17名。全道各地、函館や斜里の遠方から参加していただいた方は、長距離運転お疲れ様でした。

初日は午前10時に自然の家に集合、受付後早速10時半から「ロープワーク」の講習開始。ロープについての概略、ロープ結びの分類「ノット、ヒッチ、ベント」の違い等について説明。次に実技を交え各自に渡された2.5m程のロープを使って、装着の出来たハーネスに結束する結び方、フィギュアエイト・フォロースルー」を確実に出来るまで何度も繰り返した。

その後も「フィギュアエイト・オン・ア・バイト」、「ダブルフィッシャーマンズノット」、「クロープヒッチ」、「シートベント」等を昼食を挟んで3時間行った。

次の講義は、悪場の通過技術ということで、フィックスロープの張り込みから通過に使用するロープワークの「プルージックヒッチ、マッシュャー、クレムハイスト、ブリッジプルージック」について藤木講師から熱のこもった実技講義が行われた。

机上研修最後は、渡邊講師が懸垂下降技術の準備からセッティング、下降までの要領を実技を交えて注意点等を細かく説明して頂いた。

実情交流会は、何時もの如く和気あいあいとした雰囲気の中で過ぎ、やがて空瓶や空缶が転がり始め、有意義な時間はあっという間に経過して就寝時間になったのでした。

翌日は、快晴に恵まれた中、上滝ロックに移動しアンカーの設置とセルフビレイの取り方やトップロープでのクライミングとビレイ方法の実技講習、傾斜地でフィックスロープの登下降の実践を行った。懸垂下降については時間の都合でセッティングの方法だけしか出来なかった。14時過ぎに無事研修を終了し、閉会式を行い解散となった。

今回の研修は、今年度の指導者養成講習(アルパインクライミング)受講者にも案内したため、参加者の半数が20代から40代と若く、講師としては久しぶりに感ずるやる気満々の熱視線に、プレッシャーとともにやりがいを強く感じた研修会でした。



上滝ロックで実技

(報告 指導委員会 石川 孝一)

受講者感想

5/28・29の二日間にわたり、国立日高青少年自然の家と上滝ロックに於いて、登攀技術研修会が行われました。

一日目の机上講習では、フィギュアエイトノットフォロースルー、クローブヒッチ、ダブルフィッシャーマンズノットなど、登攀に必要な基本的な結び方を習得しました。また、危険個所の通過技術や懸垂下降の一連の流れなどについて講義していただきました。



ロープワークを経験している方でも我流であったりして、苦心されている様子の方が多いようでした。夜は実情交歓会という名のお酒を嗜み交流を深めました。大先輩たちのパワフルさに感銘を受けつつ、指導員を目指すメンバーとも交流を深めることができ、楽しく夜は更けていきました。

二日目、上滝ロックに移動し、前日机上講習にて学んだことを身につけていきます。トップロープ一本を張り、受講者がペアを組みビレイヤー、クライマーを交互に体験しました。その後、危険個所の通過技術の実践として、ブリッジプルーゾックを用いてフィックスロープに沿って斜面を通過する技術を体験し、最後に実際に下降は行いませんでしたが、平地にて懸垂下降の手順一通り実践しました。

一日で身に付くほど簡単ではなく、繰り返し手に覚えさせることが必須であることや、常に緊張感をもって臨まなければならない、ということを経験したうえで実感することができ、とても有意義な研修となりました。一日を通して青空が広がり、気温も20度超えるくらいのもとても気持ちのいいなか、楽しく充実した時間を過ごすことができました。ウドのお土産つきで、ほぼ予定通り14時過ぎに終了。講師の方々ありがとうございました。(受講者 安田)

公認山岳指導員(AC)養成講習会 7/23-24 日高青少年自然の家及びその周辺

7月23日(土)～24日(日)国立日高青少年自然の家とその周辺に於いて第一回目の山岳指導員(アルパインクライミング)養成講習会を実施しました。

受講者は男性13名、女性5名、スタッフは指導委員会滝澤氏、澤田氏、下山さん、藤木たか子さん、渡邊氏、石川の6名で対応した。藤木委員長は入院のため欠席。

23日は予定を早めて9時半より登山医学(健康管理・救急法)・気象・地形等の基礎理論講習を皮切りに、指導者制度、指導者の役割、登山計画・生活技術・遭難対策(危険の回避・セルフレスキュー)、無雪期の生活技術(幕営・炊事等)の実技・指導実習を行った。

24日は無雪期の歩行技術(出発準備・歩き方の基本・夏の雪渓歩行)の机上講習の後、屋外周辺の登山道を利用して実技・指導実習に移り、午後から縦走路の岩場の通過などを中心とした岩登り技術の実技・指導実習を行って無事終了した。

感想として、受講者の方達は、かなり前向きな姿勢で指導員を目指しているのを感じました。スタッフもそれぞれ準備に忙しかったことと思います。お疲れ様でした。

今後の養成講習会もよろしく申し上げます。



熱心に机上講習



二日目後半は実技講習

日山協指導委員会総会・研修会報告

平成28年6月11日(土)～12日(日) 東京海員会館(東京都中央区晴海)

【指導委員研修会】

1. 指導者登録更新システムについて
 - ①2015年度の義務研修の申請・実績(全国ベース)
研修実績の入力は4～9月分は11月末日、10～3月分は5月末日厳守
 - ②日体協データベースで28年1月1日から山岳指導者、スポーツライティング指導者の両資格を分離する。(※両方の資格保有者をマルチ資格保有者とする)
2. 受講管理システム
指導者の受講は受講者本人がマイページより入力するか代理入力
3. 安全登山実践講座の運営について
指導委員会と遭難対策委員会の合同で上位の夏山リーダー制度を構築へ
4. 机上講習：山のグレーディング(講師 静岡大学教授 村越 真氏)
体力10段階/技術5段階により登山道をランク付け
2014年で長野 2015年 静岡、山梨、新潟へ、2016年 岐阜へ広がる

【指導委員総会】

1. 27年度事業報告と28年度事業計画
2. 28年度登攀研修会、氷雪技術研修会及び主任養成講習会の開催件について
登攀&主任養成→長崎県 氷雪技術→富士山と鳥取大山
3. ブロック合同SC養成講習会について
近畿ブロック・中国ブロックでSC合同養成講習会開催事例
ブロック別意見交換会(北海道、東北6県で意見交換)

報告 指導委員会委員長 藤木 晴夫

指導委員会事業の「沢・登攀研修会」6/25-26 曲り沢・チロロ岳 及び「女性リーダー研修会(パワフルレディース)」7/30-31 ユニ石狩岳～石狩岳縦走は、いずれも荒天のため今年度は中止となりました。

夏山講習会 Part1 「ハイキング&初めての岩登り」 5/28-29 塩谷丸山～於古発山、赤岩

夏山講習会 Part 1は、5月28日(土)-29日(日)塩谷丸山～於古発山、赤岩と小樽自然の村「おこぼち山荘」を会場に、19名(一般5、個人会員9、山岳会会員5)の受講者で開催した。

第1日目の目的は、夏の縦走登山における事故(道迷い)への対応とした。地形を把握し、地図とコンパスを照合、そのことを習慣づけること。残雪期と比べ夏山低山は樹木に覆われ、山容がはっきりしないが、今回は、読図担当者が山行中にやるべき5つの課題を設けた。山座同定、傾斜角度、標高差等をワイワイ検討しながら尾根を歩いた。遠藤山から山荘までの道々ではウドをたくさん採取した。(結果「酔味噌和え」「すあげ」となり、みんな大喜び。即席でお手伝いいただいた皆さんに感謝!)

2日目は、一般登山道の岩尾根対策。札幌近郊の八剣山、遠くは穂高の一般登山道での滑落事故が目につく。そのことを頭に置き、今回はやさしい岩登り。岩という概念に触れ、その程度を知ろうというもの。赤岩岩頭群は赤岩の西の端にあり、努力岩、がっかり岩、ベルギー岩で構成される。そのうち二つの岩頭を、普段使用している登山靴で登った。人生初めての岩登りに悲喜こもごも?取付くまでのザレ場の下降も、悪道の典型でよい経験になったと思う。

講師・スタッフ 橋村 昭男(岩)、石井 昭彦(岩)、橋本 一郎(縦走)、秋元 篤男(総務)



遠藤山での参加者



小樽赤岩クライミング

受講者感想①

1日目の目的は「地図読み」。丸山からおこぼち山荘まで縦走しながら、地形図を使い目標の方向や角度を出したり、現在地の特定を試みたりと、実質的な学習ができました。帰ってからも復習します。縦走コースは、普段目にはしている十勝の景色とは違い、広葉樹が多くとても明るく暖かい印象の森。十勝は松が多く、厳しい森という感じがします。

2日目は「易しい岩登り」。参加していた皆さんの口から「赤岩」という言葉が飛び交っていたので、そこでやるんだとは思っていましたが、行ってびっくり、見てびっくり。あんな岩場は初めてでした。とにかく訓練する場所まで行くだけで怖い。40度位のガレ場です。ただこの場所は今振り返ってみると、自分たち以外は誰もいない、絶景スポット。集中して練習するには最適の場所なのかもしれません。でもそこへ行った時はそんな余裕もなく、1本目の岩場では登りでニッチもサッチもいかず、蟬になっていました。2本目になると少し余裕が出て、景色を見ることができました。さすがそこには絶景が・・・感動の景色でした。本当に充実した2日間になりました。これからの山スキーに生かしていきたいと考えます。

(一般参加者 井本 正秀)

受講者感想②

5月28・29日、夏山講習会Part 1は真っ青な空に恵まれました。一番の目的は初めての外岩に登ることです。去年同じ企画が雨のため中止になってしまい、今年プログラムを見つけた時にすぐ申込みました。

外岩登り当日(2日目)は青空の下、上りが続く登山道を黙々と進みます。もう先がないところまでくると青い空と海とそして茶色の急な斜面が待っていました。怖さとワクワク感とが入り混じりながら岩に向かって降りる準備です。スタッフの方々は荷物を持ちながらスタスタと岩へ降りて行きます。自分はザクザクの土に大量の岩を崩しながら降り、「落、落！」を連呼します。

いつの間にか岩の高いところからロープが降りていて、いよいよ外岩に初登りです。前日に呪文のように順番を唱えながら覚えたエイトノットを思いだし結びます。登り始めると動かない岩を探しては手と足を乗せる繰り返し、必死になって恐怖を感じず暇もありませんでした。とにかく登ることばかり考えます。なんとか登りました。次の岩では足場がもろく一瞬落ちました。安心のビレイのおかげで落ちながらもトップロープに触ってセルフビレイもできました。初めての外岩登りはワクワクと楽しいことばかりでした。

帰宅後、足にたくさんの傷と青いアザができていました。少し長めの紐を見つけるとダブルフィッシャーマンズノットはできるかなと想像する数日です。
(個人会員 林 みゆき)

岩登り講評

最初のガレ場の下りは手こずるかと思っていましたが、わりかしスムーズに行ったと思います。一般登山道でもこのようなガレ場は出てくるので、慣れていたのかもしれませんが。岩登りも簡単なルートですが、初めてにしてはうまく登れたと思います。やはり一般登山道でも小さな岩登りが出てくることもありますので、今回程度の岩登りの練習は年に一回くらいはやっておいた方が良くと思います。また、通常の登山でも、リュックの中に「スリング」、「6mmロープ」などを用意しておいた方がいいですね。
(講師 橋村 昭男)

夏山講習会 Part II 「花の富良野岳」 7/16-17 富良野西岳・富良野岳・ニングルの森管理棟

7月16日(土)晴れのち曇り。講習会本番の足慣らしに。ロープウェイ利用で富良野西岳に登る。西岳は北海道100名山のひとつ、上富良野方面から尖った頂きが目立ってカッコイイ。軽いハイキングのつもりが、この日は蒸し暑く、参加者の足取りが徐々に重くなる。険しい斜面が現れ、お花畑も出てくる頃、涼しい風に癒される。残念ながら富良野岳、芦別岳はガスの中だった。

スキー場から原始ヶ原入口のニングル小屋へ移動する。小屋での座学テーマは、自分たちの登山と地域の活性化の両立を図る地元山岳会の実情(パワーポイント使用で山名さん)。その後の広場ではBBQ、山の幸あり海の幸あり。明日の本番に備え、9時過ぎには就寝となる。



狭い山頂の富良野西岳(1331.1m)

7月17日(日)曇りのち午後霧雨。ほぼ8割が富良野岳初体験、原始ヶ原コースからは未経験者ばかりだ。しかし1200mの標高差を登り、十勝岳温泉に降りるA班に人気が集まる。十勝岳温泉往復のB班は5名と少ない。両パーティーは同時刻11時に山頂に集結できた。この日の富良野盆地は「ラベンダー祭り」で大賑わい、山も最高の花シーズンで人だかり。それにも増して花の100名山はすごい。山頂に近づくにつれ、文字通りの百花繚乱。花曇りも幸いか、花々が緑の中に浮き上がって見える。この山に固有の花エゾリソウもお目にかかれた。

霧雨で滑りやすい下山道だったが、全員無事に十勝岳温泉に到着。今回の講習会もまた、地元山岳会のみなさんに大変お世話になりました。山の花、人の心に一同感謝感激だ。(秋元 篤男)

・・・富良野山岳会からひとこと・・・富良野山岳会 近田 純美

7/16-17の両日、道岳連普及事業の富良野西岳、富良野岳登山の補助として参加することになりました。7月の連休といえば富良野地域はラベンダー一色。道も中富良野に向かって大渋滞。それでも、そんなことよりも「山に登るために」皆さん、札幌、室蘭、遠くは函館、千葉県からも参加者が集うとのこと。これは地元開催で、富良野山岳会の会員でもある玉木さんの頼みということもあり、一肌脱ぎますか！！ということで山名さん、青木さん、高見さんと近田の4名で参加させていただきました。

この時期の富良野岳は、高山植物が百花繚乱！花という花が咲き乱れ頂上直下は見事なお花畑となっているベストシーズン。登山者はみなラベンダーよりも、チングルマやハクサンイチゲ、コイワカガミやコマクサに歓喜の声をあげていました。

私たち富良野山岳会は、市民登山会でも6月第3土曜日(今までは第1土曜日)に富良野西岳、第3日曜日に富良野岳縦走登山を行っています。この時期の縦走は余程でなければ足が向かず、雪渓の無い縦走はかなり厳しかったと高見さんからも報告ありました。今回、西岳、富良野岳ともガスの中の状態で、時折晴れ間が出てくるような天気でしたが、皆さん喜んで帰られたのを見て、少しホッとしました。懇親会も楽しく参加させていただきました。皆さんこれからもまたどこかでお会いできることを楽しみにしています。お疲れ様でした。

受講者感想①

第2回夏山講習会に参加させて頂きありがとうございました。また、富良野山岳会の協力を得て無事に山行出来たことに感謝する次第です。初日は富良野ゴンドラから富良野西岳を往復、足慣らしのつもりが片道2時間強を要しました。山頂からは雲って眺望があまりきかず、時折麓の富良野盆地が見え、南側には布部岳や松頼山？が確認できましたが、鋭峰芦別岳は最後まで見えずじまいでした。宿泊は原始ヶ原登山口の山小屋「ニングルの森」。最初に地元山岳会の活動報告のレクチャーを受け、お楽しみのBBQで懇親会となりました。食事は美味しかったが、座ったブルーシート下は硬い地面で足が吊りそうになりました。(笑)

二日目は早朝出発、林間コース途中から「不動の滝」を見て三ノ沢を渡渉、一登りで赤蝦夷松とワタスゲの奥に富良野岳の山容が望まれる「原始ヶ原」に出ました。高層湿原の草花を観察しながら雨で浸食された轍のような道を30分程進んで樹林帯、その先のザレ場まで4時間以上を費やし、日射しはないが各々疲れが見えました。振り返ると見える前富良野岳と前々富良野岳(俗称)の姿がゴルフ場のようだと誰かが話していました。すで



ニングルの森管理棟前で

に原始ヶ原が随分と下に見え、感動と勇気をくれます。

稜線に上がればそこは天空の花園！ 今までの辛さを忘れてしまう程。もっとゆっくりと鑑賞したいが、団体行動の難しさ、心残りだが山頂へ急ぐ。示し合わせたかのようにほぼ同時に十勝岳温泉側からのグループと合流できました。頂きは連休とあって、沢山の一般登山客に団体 30 名弱では座る場所もなく、ガスで十勝岳方面も展望が効かず集合写真を撮影後、即さと肩分岐まで降りて食事休憩となりました。その間も様々な花が心を和ませてくれたのは云うまでもありません。途中、すれ違う時には一般登山客に大変ご迷惑もかけてしまい、申し訳なかったと感じました。中には憤慨して先に行く人もいて残念に思いました。分岐から霧雨となり、長丁場で足にきている木段はとても滑りやすく油断できません。

下山直後には地元の警察、消防の方々が救出に向かうところでした。「見かけませんでしたか？」と訊ねられ、後からの情報では骨折のようでした。何があるか常に気持ちと準備を怠らず、これからも楽しい山行を続けていきたいと思えます。最後に、お昼の弁当は最高です！ ご馳走さまでした。

(上富良野 F・S)

受講者感想②

1 日目の富良野西岳は、小さなアップ・ダウンもあり、気温が高かったのか、思いのほか汗をかきました。頂上は狭く高度感があり、緊張しましたが、足元にはお花も咲いていて癒されました。芦別岳方面の景色を期待していましたが、雲がかかり見ることができず残念でした。ニングル山小屋前でバーベキューを囲んでの交流会は、肉のほかに野菜や海鮮類が沢山あり、肉嫌いな私にとってはとてもありがたかったです。

2 日目は富良野岳、原始ヶ原林間コースに参加しました。5～6 年前に一度この登山口まで来ましたが、その日は朝 8 時まで待っても他に誰も来ず、熊が怖くて諦めて帰りました。今回は仲間と一緒にあり、わくわくした気持ちで参加できました。原始ヶ原へ行く途中の渡渉は木橋がかかっていましたが、滑りそうで緊張しました。私にとっての難所はここだったかも知れません。もしかしたら再訪は無いかと思い、原始ヶ原からの雪渓が残る富良野岳を目に焼き付けました。自然保護の観点から色々な考えがある中、今回は植物に配慮しながら、湿原を自由に歩かせていただき、自然との一体感を得ることができました。ザレ場の急登はダブルストックを利用したのが良かったのか、後ずさりすることはありませんでしたが、忍耐が必要でした。途中振り返ると前富良野岳方面への稜線がくっきりと見えており、登山道があれば縦走してみたいなあと思いました。富良野岳への稜線へ出ると、斜面一面に色とりどりの高山植物が咲いて、思わず「うわー、すごい、素晴らしい」の声が出てしまいました。さすがに花の百名山であり、頂上も登山者で大賑わいです。下山時の十勝岳温泉ルートで、私の大好きなエゾリソウを見ることができ嬉しかったです。

今回、変化ある原始ヶ原からの縦走に参加し、完走できて大満足です。お世話になった道岳連、富良野山岳会の皆様、本当にありがとうございました。

(室蘭 N・W)



布部川 不動ノ滝



原始ヶ原からの富良野岳

受講者感想③

初めて道岳連主催の講習会に参加しました。私はトレッキングを始めて1年目、自信のない私でしたが、今回は参加者の皆さんの励ましの声を糧に、頑張ることができました。富良野西岳の中腹に広がる花の種類が多さ、山頂では周囲の山々の景色と空気のおいしさに感動しました。浮雲もほどよく影をつくり、体感的には過ごしやすい日でした。

2日目は十勝岳温泉から富良野岳往復のコースです。ウコンウツギ、エゾコザクラ、ツガザクラが咲く登山道を行き、頂上に達する辺りからは山腹一面にハクサンイチゲの大群落、その中に違う花が混じり、それがポイントとなりより美しさが増す。あれほどのハクサンイチゲを見たのは初めてでした。すれ違う人たちの感動する姿を見ながら、富良野岳は皆に愛されている山なんだと思いました。

今回の大きな山は道岳連の富士登山。歩きながらその登り方を教えていただきました。今はそこに向け、近くの山で鍛錬を重ねています。いつかまた一緒に登った皆様とお会いしたいと思います。

(函館 C・Y)

ジュニア登山教室 2016 7/30-31 登別酪農館・室蘭岳

日本山岳協会主催、北海道山岳連盟ジュニア委員会が主管するジュニア登山教室 2016 は、7月30-31日の両日一般8名、スタッフ5名の参加で、登別酪農館(スポーツクライミング)、室蘭岳(登山)を会場に実施した。

7月30日(土)12時30分、参加者8名と打合せを終わらせたスタッフ5名がクライミング会場に集合、開校式を開催した。為野委員の進行のもと、明田理事長のあいさつ、参加者・スタッフの自己紹介、クライミングの注意事項等の説明後、クライミング体験に移る。今回参加の子ども5人は、年齢的な差はあるもののすでにクライミング経験者であったので、スタッフの指導を受け、さらにレベルアップを図っていた。また、大人3名のうち母親1名は初体験であったが、子どもたちに励まされ楽しそうに挑戦していた。

15時に体験を終了し、宿泊体験施設「サンパワー380」に移動。16時45分に明日の登山(室蘭岳)について説明後、夕食会場の「だんぱらロッジ」に移り全員ジンギスカン鍋を囲んでいると、突然、地元室蘭岳連の横山夫妻が激励に駆けつけてくれた。しかも、飲物、明日の行動食(饅頭)、そして子どもたちへのおみやげまでも差し入れてくれました。ありがとうございました。

19時前、暗くなってきたのを見計らって、花火を楽しむ。白煙の向こうに子どもたちの笑顔が輝いていた。19時30分宿泊施設に戻り、入浴、交流等後、21時30分ころ就寝する。

翌31日(日)6時起床、部屋の清掃を済ませ7時から朝食。その後登山準備をして8時10分登山口集合。準備体操後、登山開始。(前日来の雨のため、当初予定 西尾根→南尾根(夏道)コースを南尾根コース往復に変更)8時25分白鳥ヒュッテ到着。ヒュッテ脇の水場に参加者に気づかれないよう「スイカ」を冷やしておく。先頭を歩く為野委員は、時々立ち止まり、参加者に登山中の注意点、植物や動物、水分補給等の説明を行いながら頂上を目指す。



10時山頂に到着したが、あいにくの濃霧で視界不良。参加者に周りの山々や噴火湾の景色を見せる事ができず残念。10時30分下山開始、登ってきた道を引き返す。11時30分白鳥ヒュッテ到着。「こんな所にスイカがある」と言いながら、冷えたスイカを水場から取出すスタッフを見て参加者はビックリ。早速、全員で水分補給。「甘い!」、「おいしい!」の声があちこちから聞こえる。12時10分登山口駐車場に到着。

駐車場において閉校式を開催。子どもたちに「ジュニア登山教室2016」の修了証書と記念バッチを授与し明田理事長のあいさつで閉校式を終える。最後に参加者全員が協賛先の「秀岳荘」から提供を受けた山用小物と思い出をみやげに解散した。両日とも一時雨が降る場面もあったが、幸い雨に当たることもなく、しかも無事に行事を終了することができました。スタッフの皆様お疲れ様でした。



室蘭岳山頂

(報告 ジュニア委員長 本林 尚之)

参加者からのお便り紹介



自由研究の成果

先日は、ジュニアとごん教室で大変お世話になりました。子供たちだけでなく、親の私たちも存分に楽しんでしまいました。本当に有難うございました。

子供たちが夏休みの自由研究にと、登山についてまとめましたので、写真を同封します。楽しかった感想も書いてあります。

来年も是非参加させていただきたいと思っています。

(父母と小5、小3の4人で参加のS. Mさんから)

先日は、父娘共々楽しい体験をさせていただき、ありがとうございました。

特に室蘭岳の山登りは、娘にとってよき体験、思い出となったようで、私も娘と一緒に完登でき感動しています。

娘は、「また、別な山へ行ってみよう」と言っていました。2日間のわくわくドキドキした気持ち娘の楽しげな顔がよみがえりました。下山後、いただいた「スイカ」おいしかった!!

また、ご縁がありました時には、よろしくお願ひします。

(父親と小4の2人で参加のT. Kさんから)

第11回 国体山岳競技北海道ブロック予選会 兼 平成28年度 北海道体育大会山岳競技会 7/17-18

国体予選会は、平成28年度北海道体育大会山岳競技を兼ねて、7月17日リード競技が美唄市体育センターで、18日ボルダリング競技がグラビティリサーチ札幌で開催された。

種目別全参加者数 (1種目参加の選手 中学2年以下の選手も含む全参加者)

種目	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	ビギナー	キッズ	合計
リード	10	2	23	14	19	11	79
ボルダリング	12	2	28	14	13	0	69

種目の競技結果（上位3人まで掲載）

リード 成年男子			リード 少年男子		
1	松浦 凌	礪北見	1	谷口 翼	遠軽高校
2	岸本 武蔵	礪北見	2	亀田翔太郎	遠軽高校
3	古坂 賢太	Whipper Snapper Gym	3	竹内 悠真	立命館慶祥中学校

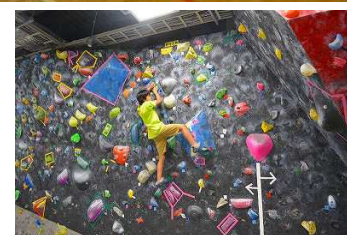
リード 成年女子			リード 少年女子		
1	萩原 亜咲	Whipper Snapper Gym	1	井土 桜花	札幌市立三角山小学校
2			2	北谷 未紗	遠軽高校
3			3	上原子 瞳	

リード ビギナー			リード キッズ		
1	高橋那伯志	遠軽高校	1	高橋 輝夏	
2	佐川 奎汰	遠軽高校	2	栗田 瑛真	
3	江川 葉	八雲高校	3	中嶋 理央	

ボルダリング 成年男子			ボルダリング 少年男子		
1	松浦 凌	礪北見	1	関根 溪人	遠軽高校
2	古坂 賢太	Whipper Snapper Gym	2	坂本 大河	札幌市立常盤中学校
3	梅津 恒平	グラビティリサーチ	3	亀田翔太郎	遠軽高校

ボルダリング 成年女子			ボルダリング 少年女子		
1	萩原 亜咲	Whipper Snapper Gym	1	井土 桜花	札幌市立三角山小学校
2			2	北谷 未紗	遠軽高校
3			3	上原子 瞳	グラビティリサーチ

ボルダリング ビギナー		
1	佐川 奎汰	遠軽高校
2	高橋那伯志	遠軽高校
3	曾我部 舜	遠軽高校



第71回国民体育大会北海道代表選手

- 成年男子 選手1 古坂 賢太 Whipper Snapper Gym
 選手2 松浦 凌 T-wall
 補 欠 岸本 武蔵 北海道薬科大学1年
 補 欠 武者 知希 北翔大学1年
- 成年女子 選手1 萩原 亜咲 Whipper Snapper Gym
 選手2 小武 芽生 女子栄養大学短期大学部1年
 補 欠 一安 瑛子 株式会社 秀岳荘
- 少年男子 選手1 関根 溪人 遠軽高校3年
 選手2 亀田翔太郎 遠軽高校3年
 補 欠 野田 銀我 遠軽高校3年
- 少年女子 選手1 北谷 未紗 遠軽高校2年
 選手2 上原子 瞳 札幌市立新川中学校3年
 補 欠 佐藤いぶき 北海道科学大学高校1年

☆岩手国体（希望郷いわて国体）山岳競技は10月7-9日開催。盛岡市県営運動公園が会場

スポーツクライミング全日本ユース選手権 ボルダリング競技大会

5/14-15 島根県倉吉市 県立倉吉体育文化会館

- (男子ユースB) 34位 竹内 悠真
(男子ユースC) 26位 亀田翔太郎 8位 谷口 翼
(男子ジュニア) 4位 武者 知希 13位 関根 湊人 14位 野田 銀我
(女子ユースA) 13位 北谷 未紗
(女子ユースB) 12位 上原子 瞳
(女子ジュニア) 12位 永野 亜弥

第19回JOCジュニアオリンピックカップ大会（リード競技）

8/13-15 富山県南砺市 桜ヶ池クライミングセンター

- (男子ジュニア) 7位 岸本 武蔵 17位 野田 銀我
(男子ユースA) 38位 谷口 翼
(女子ユースA) 19位 北谷 未紗
(女子ユースC) 10位 井土 桜花
- ※以上二大会は日山協HPの大会リザルトより転載



国際オリンピック委員会（IOC）は、8月3日リオデジャネイロで開催した総会で、2020年東京オリンピックで野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンの5競技18種目が追加実施されることが承認された。野球・ソフトボールの組み合わせ競技以外の4競技はオリンピック初採用となる。

ただし、1大会限りの採用となるため、2024年夏季五輪の開催都市が追加競技を選定できることから、これらが入り替わる可能性があるという。スポーツクライミングは、ボルダリング・リード・スピードの三種目、選手枠は40名で、競技会場は東京お台場と発表された。

今後の諸行事

夏山講習会 partⅢ 西別岳・摩周岳 … 道東 2 山を登る

1. 期 日 平成28年9月17日(土)～18日(日)
2. 会 場 西別岳・摩周岳(天候によっては 武佐岳に変更あり) 宿泊 西別小屋

北海道トレイルランニング大会 2016in ルスツ

1. 期 日 平成28年9月25日(日)
2. 会 場 ルスツリゾート・貫気別岳周辺

第2回理事会

1. 期 日 平成28年10月16日(日)
2. 会 場 札幌市

第15回スポーツクライミング北海道選手権大会

兼 第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会
兼 第57回札幌市民体育大会クライミングコンペ

1. 期 日 平成28年10月23日(日)
2. 会 場 北海道科学大学体育館

日高登山研修所納会・各専門委員会

1. 期 日 平成28年10月29日(土)～30日(日)
2. 会 場 日高登山研修所

第55回全日本登山大会島根大会

1. 期 日 平成28年11月4日(金)～6日(日)
2. 会 場 島根県 太田市・松江市(三瓶山・石見銀山)

安全登山シンポジウム

1. 期 日 平成28年11月15日(火)
2. 会 場 札幌エルプラザ(予定)

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.78 平成28年9月1日発行

発行 北海道山岳連盟

事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫

編集担当(総務) 内藤 美佐雄